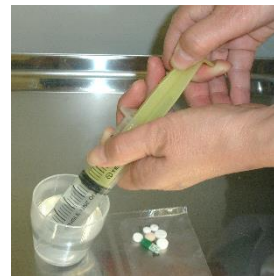


簡易懸濁法(かんいけんたくほう)

香川県立中央病院薬剤部

簡易懸濁法とは、薬剤投与時に錠剤カプセル剤などの薬剤をそのまま水に入れて崩壊・懸濁させる方法です。

- ①熱湯と水道水を2:1で混合し約55℃の湯を作り、シリンジに20mLを吸い取る。



- ②注入口をサランラップ等で押さえピストンをはずし、薬剤を充填する。



★「カプセルを開ける」、「錠剤を乳鉢等ですりつぶす」と実施者が被曝します。カプセルは「そのまま」で溶解できます。シリンジにそのまま入れましょう。割ると懸濁可能な薬剤は、ヒートや1包化の袋の上から乳棒で叩きましょう。



- ③ピストンを挿入し10分間待つ。
(時々転倒混和する。)



- ④溶解を確認し、薬剤を注入する。



シリンジの側面が白くなったり、粒が残っていると薬剤がきちんと注入されていない可能性があります。白湯できちんと洗って、注入しましょう。徐放性や腸溶性の薬品(タケプロン等)では粒が残る事がありますが、つぶすのはNGです。

- ⑤白湯を20mL追加注入し、薬剤を洗い流す。



散剤や錠剤を割った場合は、噴射瓶を使用する場合があります。

- ①シリコン栓でシリンジに蓋をする。
- ②薬剤をシリンジに入れる。
- ③ピストンをはめ込み、シリコン栓をはずす。
- ④先端から、噴射瓶で55℃の温湯を入れる。
以降は上記の方法と同じです。



★経口で内服される方は、カップで懸濁する方法もあります。